

藤島地域小中学校整備検討委員会（第2回会議） 会議録

1 会議の開催概要

○日 時 令和6年10月11日（金）午後6時30分～午後8時30分

○場 所 藤島地区地域活動センター

○出席委員 24名

齋藤昭彦、高橋和夫、成田信一、高橋俊一、近藤直志、萬年義憲、成澤弘明、
阿部貴志、岩浪香奈子、上林千尋、浅賀雄、丸山碧、星川洋平、井上夏、
佐藤泰浩、太田佳菜子、安在堅、武田蓉、遠田良弘、西脇庸、今野良和、太田功、
百瀬裕慶、成澤啓雄

○市出席者 <教育委員会>

教育長 布川敦、教育部長 永壽祥司、管理課長 清野健、学校教育課長 今野新一、
管理課主幹 伊藤智康、学校教育課指導主幹 落合正幸、管理課庶務係長 長瀬陽彦、
管理課庶務係主事 佐藤歆一

<藤島庁舎>

支所長 成田譲、総務企画課長 小林雅人、市民福祉課長 出村真一、
総務企画課長補佐 後藤春雄、総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優、
総務企画課主査 村田喜栄

○傍 聴 者 10名

○会議次第 1 開会

2 挨拶（藤島地域小中学校整備検討委員会会長）

3 要綱改正について

4 報告

（1）各小学校区懇談会の状況

（2）委員提出意見

5 協議

（1）教育委員会への報告について

（2）報告に係る附帯意見について

（3）その他

6 その他

7 閉会

2 会議録

■次第3 要綱改正について

(教育部長) 要綱改正について、事務局から説明する。

(管理課主幹) 資料1を説明。質問無し。

■次第4 報告

(1) 各小学校区懇談会の状況

(2) 委員提出意見

(会長) (1) 各小学校区懇談会の状況、(2) 委員提出意見について、一括で説明をお願いする。

(管理課主幹) 資料2、2-1、2-2、3、3-1を説明。

(会長) 次第4の報告に関する説明に対する質問は、後程協議の中で一括して受けるので、このまま協議の方に進む。

初めに、進め方について申し上げる。次第4の報告では、藤島、渡前の各小学校区懇談会において、施設一体型の義務教育学校の整備に賛成とのことであった。今後、東栄小学校区懇談会からの報告を受けて教育委員会に最終的な報告をすることとなる。(1) 教育委員会への報告としては、藤島、渡前の各小学校の懇談会の状況について中間報告として取り扱わせていただくこととする。(2) 報告に係る附帯意見については、これまでの意見や小学校区懇談会の意見などを踏まえて意見を伺う。今後、東栄、渡前の小学校区懇談会からの報告がされるので、本日の意見と合わせて、第3回の検討委員会でさらに協議をし、整備検討委員会の附帯意見をまとめたいと考えるがよろしいか。

(異議なし)

(会長) 異議なしと認め、協議に入る。

■次第5 協議

(1) 教育委員会への報告について

(会長) (1) 教育委員会への報告について、藤島、渡前各小学校区懇談会の会長から、懇談会での協議について報告願う。

(委員A) 9月28日に第2回藤島小学校区懇談会を開催した。

義務教育学校、小中一貫校に対する賛否と意見を述べてもらったところ、各々から賛成の意見をいただいた。明らかに賛否を言わなかった方が3名いたが、質問に対して教育委員会から回答してもらい、納得したようであった。藤島小学校区として小中一貫校、義務教育学校の整備に対して賛成と報告する旨諮ったところ、挙手を求めたわけではないが、異議が無く、決した。

附帯意見については、1回目と2回目の懇談会で出た意見を五つの内容にまとめ、5項目の附帯意見として添えて報告する旨、会議の中で了承を得た。

小中一貫校に対する不安はあるが、複式学級は解消していただきたいこと、将来に向かって一つの手本となるような小中一貫校を作っていただきたいこと、中学校の老朽化が問題であり早く改築を進めていただきたいこと、子どもの安全と教育環境の充実と継続が重要ということが意見の基本にあった。

総じて、小中一貫教育については、今後生じる課題にどのような体制で臨むかが重要という意見であった。

(委員B) 9月6日、第1回渡前小学校区懇談会を開催し、教育委員会から藤島地域小中学校整備についての説明を受け、質疑応答を行った。

9月28日、第2回懇談会を開催した。2名の委員が欠席であったが、質疑応答の後、委員に施設一体型小中一貫校義務教育学校の整備に対する賛成・反対の意見を聞いたところ、出席委員全員が賛成であったため、渡前小学校区としては施設一体型義務教育学校整備に賛成の旨検討委員会の方に報告することにした。

特に渡前小学校は複式学級が生じており、統合の問題があるため、附帯意見については第3回懇談会で協議することにした。

(会長) ただいまの説明に対して質問はあるか。

(委員C) 藤島小学校区懇談会で、将来に向かって手本となる一貫校の整備をしていきたいとのことだが、藤島地域以外で義務教育学校が実現する見込みは無いと感じている。手本となるということはなく、藤島だけが義務教育学校となって将来誰もついてこないという状況にならないか。

(会長) この件に関しては教育委員会から回答願う。

(管理課主幹) 小中一貫教育を来年度から全中学校区で行っていくことと、藤島中学校の整備が重なったことから、小学校も一緒に整備してはどうかということで、藤島地域での義務教育学校の検討議論が進んできたものである。特に藤島地域は文厚エリアに小学校と中学校が近接していて条件として整っている。

その他の地域における義務教育学校整備の議論は今のところ無いが、将来的に全く無いわけでは無い。一つの小学校から複数の中学校に分かれる学校区では難しいと考えるが、地域庁舎管内の学校区では将来的には可能性はあると考える。

(会長) 他にあるか。

(委員D) 藤島小学校区懇談会からの報告中の附帯意見(3)に藤島文厚エリアについての記載がある。具体的にどのように整備がなされるかというイメージがあれば示していただけないか。

(委員A) 児童館を小中学校と同一敷地内に整備するとか、武道館の整備は一体に考えていかねばならないのではないかという意見がある。

(会長) 他にあるか。

(委員E) 先日、明倫学園を視察し、感じたことなどを話したい。住宅地の中に十分スペースを確保して、建物が新しくなったのはわかるが、憩える場所とか緑はほとんどなかった。中学校の教育スタイルに小学校の方が合わせられていると感じた。運動会行事は1年生から9年生まで一緒の一日行事であり、低学年には負担が大きいと感じた。これまで教科担任制がメリットであるとの説明が再三なされていて、明倫学園でも教科担任制が魅力だと思って聞いたところ、基本小学校の先生で回っていて、9教科の9人の先生と生活指導合わせて、1人の児童に10人担任がいるようなのだと聞いた。乗り入れ授業ができるとの説明も受けていたが、イメージと違い、中学校の先生と小学校との関わりはまだ薄いと感じた。4年目に入っているが学力の向上はいまだ望めないという正直な校長の話もあった。中1ギャップの解消のために明倫学園を義務教育学校にしたという話だったが、実際、授業放棄の子どもたちがオープンエリアで復帰のタイミングを見計らっているという説明があった。

「義務教育学校」、「複式学級の解消」、「小規模」、「早く統合を」というキーワードがすべて繋がっているとは思えない。統合と義務教育学校というのは別物で、統合ではなくて、義務教育学校を取っていかうという話のはずだった。ところが、何となくその言葉が全部繋がっているように受け取られて、しかも、次回には提言の中に、「早く統合を」と入れるとのことである。誰のために、我々大人が考えているのか。子どものために、大事なところを惑わされない、本質から外れないようにしなければならない。

一昨日の新聞に載った、袴田巖さんのお姉さんの記事を引用する。「最近皆さんのおかげでちょっとマシになった。記者になるとその世界に浸かってしまうのではないかと。中に入って溶け込んでしまったらおしまい。疑問に思うことは抵抗しないといけない。上司がそういうからでは駄目だと思う。」それを読んだときに本当に私たちが義務教育学校を十分理解しているのか、疑問である。また、中学校と小学校の話題ばかりで、小学校と幼児施設の一体化はあまり議論されていない。大事な部分を見落としてはならない。

保護者のアンケートで「施設にお金をかけられないからしょうがない」という声も随分多くあったと受けとめている。補助率の問題ではなくて、地域がどの時期に、こういった中身で、藤島地域全体を望むのかということ、教育委員会は待っている。逆に義務教育学校ありきでやっているのではない。そうであれば、もう一度その言葉や中身を見てもらいたい。市議会議員に五、六年前から、期成同盟会を設置して早期改築に動こうと働きかけているが、ずっと動いていない。まずは藤中を真っ先に建設すべきと考える。条件整備の議論は必要なく、スクールバスの中身も今と同じ形で進めばよい。屋上屋を重ねるような意見交換会をするよりは、中学校を先に3分の1で建ててしまった方が、最終的には建設費用が膨らんで2分の1になろうとも、結果的に割安になるのではないかと。

もう一度、どんな整備だったら、家移してまで藤島に来たくなるようなまちづくりになるか考えなければならない。

(会長) 最初の部分は要望事項として附帯意見に織り込んでも差し替えない意見だと考える。後半の部分については、各懇談会の方で討議されて賛否をとってきているので、それを繰り返すようなことはできないことをご理解いただきたい。渡前小学校区では3回目の懇談会が残っているので、そこで揉んでいただきたい。この場では、各地区の意向を伺うという形になっているので、討議は控えさせていただきたい。

(委員F) 中学校改築は、本来であれば来年度には計画が始まってもおかしくないと思うが、一刻も早い中学校改築が望まれている中で、この計画が進まなければいつ改築が始まるのかとの不安の声が保護者の方から聞かれている。

このまま2年、3年、中学校の改築が進まないとなると、こういった計画になるのか、方向性について聞きたい。

(教育部長) 先ほど会長から議事を整理していただいたとおり、今は懇談会の報告についての

質疑をしているので、改めての委員からの意見・質問については、これからの議論の中で進めていただきたい。

なお、ただいまの、話がまとまらなかったときにどれだけ遅れるかとの点について、直ちに答えられる情報を持ち合わせていないため、確認してお示しできるようにする。

(委員F) 本来の中学校改築がどれだけ早く進むのかという意見があり、一番気がかりになっている。その点も踏まえて、話を進めていただきたい。

(教育部長) 教育振興会議の提言においても、1点目に「中学校の改築を早期に行うこと」といあり、これまでの議論の中でも喫緊の課題とされ、今、中学校の改築に向けて令和6年度の取組みを行っている。この作業についてはいずれにしても急いでやらなければならない。先ほどの質問の点については、整理して説明の機会を設けたい。

(委員C) 義務教育学校の整備に賛成と各地区から提出されたわけだが、義務教育学校に賛成する理由を明らかにしないと、報告としては足りない部分があると認識している。

委員Eからもあったように、幼保小一体は世の中に多くあるが、小中一体というものはまだ地域の中に理解されていない部分がたくさんある。なぜそれを求めるのかを発信していくことが、この検討委員会の役割であり、必要だ。

(会長) 整備検討委員会として、義務教育学校整備に賛成する理由づけを整理・明記して一般の方々にご説明が必要ではないかとの意見だが、いかがか。各個人からご意見をいただき、それをもって決議をしたと考えている。

(委員G) 議論を後戻りさせてはいけない。3年前、藤島地域振興懇談会に会長という立場で携わったが、中学校の早期改築という意見が出た。危険校舎にいつまで生徒をいさせるのだというもっともな意見であった。その際に、中学校の改築だけでなく、藤島の今後の教育のあり方について議論をすべく、教育振興会議を設けていただき、委員から意見をいただき、四つの提言という形でまとめていただいた。その経過の議事録などをいただいているし、地域懇談会等で説明がなされている。なぜ小中一貫校、義務教育学校をその提言に入れたかの理由は、今までの説明をよく聞けば、メリット、デメリットは示されている。今更、義務教育学校、小中一貫教育が良いか悪いかの議論でなくて、これからの藤島の学校教育がどうあればいいかという一つの考え方として義務教育学校、小中一貫校が教育振興会議から提言として出されたわけなので、それを最大限尊重して議論を進めていくのが、この会議の一番大事なところではないか。今更議論を後戻りすることはやめてもらいたい。前向きな意見を頂戴したい。何か問題があるとすれば、どのように解決していくのかという議論を皆さんからし

ていただきたい。

(会長) 渡前小学校区、藤島小学校区については、義務教育学校を進めたいとの意向を決めているので、進めるにあたって、要望、課題、また、反対理由に対して何を解決しなければならぬかということについてご意見をいただきたい。

(委員H) 今の段階では反対と言うしかない。鶴岡市、鶴岡市教育委員会は、藤島の教育にそこまでお金をかけたくないのかと感じる。補助率がいいので義務教育学校にすることとは、自分も幼稚園を運営しているから仕方ないということもある。ただし、今後義務教育学校ができた後の運営、藤島地域の教育にもっとお金をかけてほしい。教員を加配してほしい。そのことをずっとお願いしてきたが、返事は全く無い。今、反対だと言ったが、附帯意見を必ず実行するという条件付きで賛成する。前向きに検討するとか尊重するとかではなく、実行することを教育委員会が確約すれば、不本意ながら賛成する。これが議論を後戻りさせないことである。鶴岡市、鶴岡市教育委員会はもっと藤島にお金をかけると言ってもらいたい。

(会長) 検討委員会でも、十分意見を協議した上でまとめ上げて、教育委員会に上げたい。今後検討委員会解散後、具体的に整備を進める委員会が立ち上がるが、附帯意見については配慮していただきながら、そこで十分揉んで実行していただくようお願いしたい。

(委員H) 協議の(1)で賛成と出て(2)で附帯意見とあるが、あくまでも附帯意見を実行することが条件で賛成したい。附帯意見は反対の立場の方々が言ったことではなくて、本当にみんなの意見でまとまっていることであるから、これは必ず実行してもらう必要があることだと認識している。

(会長) その点は教育委員会に十分お願いするという事で附帯意見を上げていきたい。他に
あるか。

(委員F) 後戻りさせない議論をすべきとのことだが、せっかく女性の方から参画していただいているので、女性の方からも、明るい未来に繋がるような話が聞きたい。とても話せる雰囲気ではないかもしれないが、もっと和やかに、良い意見が出ればと思う。

(会長) この後、意見を一人ずつ伺う。特に無ければ、協議1については終了する。先に確認したとおり、今後、東栄小学校区懇談会での報告を受けて教育委員会の方に最終報告をする

ことになる。藤島、渡前小学校区の意向については、現段階で中間報告として取り扱わせていただく。

それでは次の（２）報告にかかる附帯意見についての協議に移る。

（２）報告に係る附帯意見について

（会長）附帯意見については、この検討委員会の意見、各小学校区懇談会の意見、すべてが出されてから、後日、整備検討委員会の附帯意見として提出したい。委員から一言ずつ、なるべく要点をまとめて発言いただきたい。今日、新たに加わった委員の方々から先に意見を伺いたいので、３号委員の方から順に発言願う。

（委員Ⅰ）まず私個人の意見として、整備を進めるにあたっていろんな角度、いろんな考え方がある中で、保護者という立場上、今、子どもがどんな思いでいるのかを重点に置いて考えている。子どもが東栄小学校で、その時に複式学級を経験した。当時の担任の先生はとても熱心な方で、何も不満はなく、とてもありがたいと思って過ごした。ただ、当時の東栄小学校は全学年で 50 数人と小さい学校で、そこから藤島中学校の 1 年生になったら 1 学年の人数が 80 人となり、学年の人数が全校児童よりも多い中に飛び込んでいった状態となり、なかなか馴染めない子が多かった。そのような、いわゆる中 1 ギャップを解消するという点でも、これからソフト面で始まる小中一貫教育の効果を一層高める小中一貫校、義務教育学校があれば、もっと後押ししたい環境になるのではないかな。会議の場で何回も説明を受け、先日新庄市の明倫学園にも視察に行き、イメージを掴んだ中では、腑に落ちて、前向きに進めていきたいと考えている。

以上が私の個人的な考えだが、PTA 会長という立場上、保護者の皆さんの意見も反映しなければならず、今月、中学校の保護者にインターネットでのアンケート調査を行った。３月に教育委員会が行ったアンケートの結果と、そこでの質問に対する教育委員会からの回答も示し、その上で今はどう考えるかという形で問うた。現在、80 を超える人数から回答いただき、義務教育学校の整備については賛成が約 88% で、大体 3 月のアンケートと同じような結果となっている。反対の 12% の方に、反対意見の内容も伺った。地区から見ると、「小学校が一つになること」、「小中が一緒になること」、「施設一体化になること」という、三つのステップが一気に進められようとしている中で、どれに反対なのか。これに加えて、「漠然と不安があるから、わからないから」という四つの選択肢を準備して反対の方に意見を聞いたところ、四つが全部同じような割合で分かれていた。また、自由記述意見も聞いた。施設を早く作ってほしいとか、施設一体型でなくて併設型がいいという意見もあった中で、一番多かったのは、どうせ作るのであれば、こういう学校がいいとか、体育館を二つにしてほしいという、前向きな意見がたくさんあった。このような意見は、この委員会の次のステップの準備委員会のときの参考にしてもらいたいと考えているので、後程、アンケートの結果を取りまとめたら教育委員会に届けたい。

(委員J) 今回初めて参加して、個人的には、正直、私たち世代だとわからない、イメージができないという人が多い。今、一番下の子が中学校1年生で、小中一貫校になり7年くらいで建ったとしても、もう卒業しているし、やはりわからないというお母さん方の声は聞いた。一番は、どんな結果になっても、子どもに何かあったときに周りの大人がきちんと対応できる力があればよいと考える。一番不安に思っているのが、不登校のことだ。娘が小学校5年生から不登校だった。女の子が7人、男の子が8人のクラスで、1年生から6年生までずっと一緒なのでグループ化し、仲の良かった子が別の子と仲良くしていて自分は遠慮してそのグループに入れなくなった。中学校に入ったら友達が増え、学校に行けるようになった。不登校のときも、渡前小学校の方では一生懸命親身になってくれて、私も一緒に登校して、そこで私は仕事しながら子どもは勉強を教えてもらうなどした。そのような対応が学校と家庭でうまくできれば、その子が将来ちゃんと中学校に進んでいけると感じたので、学校をどうするかよりも、大人がしっかり子どもたちを見て、その時その時にしっかり対応してくれればいいというのが、個人的な意見である。

(委員F) 前向きな意見として、小学校中学校一緒になった場合には、様々な地域から通学しやすい環境を整備してほしいということを一貫してお願いしている。先日、明倫学園に視察に行った際、新庄では10年近くかけて小中一貫教育を整備して今があるとのことだった。鶴岡市に致道館という中高一貫校ができている今、なぜ藤島で9年間の学年割りが自由な学校になるのか、一貫性が取れていないというのが保護者としての意見である。6-3制を維持するなり、進学に際して繋がりができる環境整備なりを、お願いしたい。中高一貫校に進学したら、9年間の義務教育学校をどこで区切るかは明確になってくるとは思うが、その点も教育委員会の方から具体的なイメージを示してもらえればさらに前向きな議論になるのではないかな。

(委員K) 下の子が3歳なので、小中一貫校ができた場合は対象になるが、上の子が高校生と中学生と小学校に在籍している。小中一緒になったときのイメージが本当に全然わからない状況である。意見が出されているときに、もうなるのだろうなとしか思っていなかった。委員会参加も初めてで、意見をどう言っているのかもわからない状況なので、とにかく子どもたちが過ごしやすい環境になればいいと考えている。

(委員L) 一番下の子どもが3歳になる。自分も子どもが大きくなって小学校に入るときは小中一貫校に当てはまる。藤島にお金をかけてほしいという話があったが、もしそういう意見を出せば藤島にお金をかけてくれるのであれば、なおいい。

(委員M) 今回初めて参加している。藤島小学校区懇談会に参加したが、その時点での議論にいまだに納得できていない部分があるのに、皆さん納得したとまとめられて、憤りがあって

今回参加した。議論を戻したくないという意見があったので、前向きな検討として一つお願いしたいのは、先生方の確保、大人の目をたくさん増やして、子どもたちが一瞬でも目を離されない状況を作ってほしいということである。建物だけ立派でも、教員が不足していれば何の意味もないので、お金と時間と人を藤島にかけていただきたい。

(委員N) 私個人の意見だが、私は義務教育学校の整備には賛成している。上の子が小学4年生で、今は渡前小学校で複式学級を経験している。下の子が2歳で、小中一貫校が整備されるとなると対象となる。賛否に時間をかけるよりは、委員会の意見にもあるとおり、具体的内容の検討に時間をかけていただきたい。保護者の方と地域の方はほとんどの方が賛成ということで話は進んでいると捉えているが、多くの教職員の方々が反対署名活動へ賛同しているということが引かかっている。その点はどうなっているのかを聞きたい。

(会長) 反対署名活動の点は後から答えてもらうこととする。

(委員O) 渡前小学校は現在複式学級があり、今年度、鶴岡市内にある小学校の中で一番児童が少ない小学校である。非常に子どもが少ない中でいろんな行事、授業を限られた教職員の先生方が、一生懸命対応してくださっていると認識している。ただ、この先も子どもの数が少なくなっていき、来年度以降、今の教職員数よりもおそらく減るのではないとも言われている中で、正直なところ早く進めていただきたいというのが、私個人の意見である。私も小学校6年生、1年生、保育園5歳児の子がいる中で、クラスが少ない中に通うことについて、実際いいところもあるが、不安もある。個人的には小中一貫校には賛同しているが、様々な意見がある。100人が100人同じ方向を向くわけではないが、不安を一つでも多く減らしていただいて、鶴岡市、山形県、全国からも注目を浴びるような学校教育にしていけることで、またこの地域に人が集まるのではないかと期待もある。

(委員P) 個人的には、最初は施設一体型の小中学校でもいいと考えていた。ただ、アンケート結果を見せてもらい、いじめが発生した場合、同じ環境でずっと生活していくので卒業するまで状況は変わらないのではないかと懸念から、一体型は難しいと考えている。東栄小学校は来年1、2年生の方で複式学級があるとのことだった。今後も少子化で複式学級が増えていくと思われ、子どもたちや教員の負担を考えると、小学校だけでも早く統合してほしい。

(委員Q) 長沼地区は一度小学校の統合を経験しているので、私自身も統合に関しては想像しやすかったり理解も早かったりすると思うが、例えばこの後、小学校が統合し、中学校とも統合することになった場合、ずっと同じメンバーで進んでいく中で、節目の行事を大切にしていきたい。子どものことを一番に考えて進めていっていただきたい。個人的には最初

は、建物が別で学年が上がる経験があったらいいと考えていたが、建物が一緒の方に賛成する意見が多いとすれば、私も前向きに賛成して、そこに対して子どもたちのことを一番に考えて進めていっていただきたい。

(委員R) 中学校は築五十数年、小学校は築四十数年経っているので、本当に早期の建て替えが必要だと思う。その中で小中一貫校という話が出て、私は賛成する。中学生と小学校6年生、5歳の子がいるので、未来の藤島小中学校があたたかい学校になるのを夢見ている。

(会長) 先ほど教職員のアンケートの関係の発言があったが、この点について委員から回答願う。

(委員F) 署名の取りまとめをした。署名総数約900筆だったが、教職員組合からの署名が約400筆集まった。教職員組合の方で業務の多忙化が小中一緒になることの懸念材料として、大変多く上がっている。小学校は教育学部を出て小学校の先生をされる方が大半だが、中学校では教員免許を取って中学校の先生をされるので、今まで続いてきた教育の内容が違うという点で、一緒になることに不安を覚えている教職員の方から署名としてたくさん賛同が集まった。

(会長) 次に、4号委員から、順に発言願う。

(委員D) 昨年度の教育振興会議から携わった中で、提言としてまとめてきたが、その間にもさまざまな資料等でこれからの藤島地域の児童・生徒数の減少のこと、文厚エリア整備のことが示され、そして今、改築するならばぜひいいものをとの若い方の意見が結構多かった。藤島小学校区と渡前小学校区の方で義務教育学校という方向性が定まってきたと報告があったが、やはり小中一貫校の一番効率的なメリットが得られる形態は、意思決定が率直になされる義務教育学校ではないかと考える。小学校と中学校が分かれていると、小学校と中学校の教員の交流はあるものの、授業交流会で年に数回程度であり、そういった範囲で見た児童・生徒の姿と、実際毎日の生活の中で事業を通して見た姿は、やはり違うと思う。両方のよさを見いだすためにも、一緒の組織で運営していく形態が、一番メリットが図れるし、教育課程上の特例の実施も効率的になされるのではないかと。

(委員S) 第1回、第2回会議に参加しての感想を述べさせていただきたい。

小中一貫校も義務教育学校も視察したことはなく、そこでの子どもたちの育ちとか実態も見ただけではない。また、義務教育学校のメリット・デメリットについても深く承知している

わけではないと自覚している。ただ、この話を主導している市教委は日々、子どもの健全育成とか幸せのために尽力しているので、その方々が言うからには、メリットが大きいから進めているのだろうと理解した。実際蓋を開けて結果がどうなるかわからないが、疑うことから始めるのではなく、信じることから始めるべきではないかと思って参加させてもらった。

(会長) 5号委員からは、先ほど発言あったが、更に意見があれば発言願う。

(委員G) 様々なご意見があることは当然である。初めての取組みであるからわからないことが多い。どういう学校ができるか、施設がどうなるか、グラウンドはどうなるか、或いは武道館や図書館の整備はどうなるか、といったことのイメージがよくわからないので不安が先に立つということは理解する。しかし、これから子どもたちが減っていく状況を考えると、今のままでいいという人は誰もいないと思う。モデルになるように、藤島で力を合わせて取り組むことが一番大事だと考える。課題があれば、一つ一つ整理をしながら解決していくという方向で、ぜひ進めていただきたい。

(委員E) 先ほど明倫学園のことを話したが、いいところが二つあった。

一つは、十分な職員体制がとられていたということである。基準以上のものだと感じた。教育委員会に配置されて何かあったときにその学校に行く、という配置の仕方はよくあるが、明倫学園には十分な先生方がいると感じた。

もう一つは、新庄市全体が20年も前から小中一貫教育について取り組んできて、萩野学園、明倫学園の設置と歩んできたということである。

ここは議論する場でなくて小学校区懇談会で議論すると会長は言うが、小学校区懇談会で質問すると、今は答えられない、或いは、努力目標だ、とはぐらかされ、明確な答えが得られていない。例えば職員の加配をするとか、スクールバスを心配なく運行するということを、答えとして出していただくと安心が持てるのだが、ことごとく、今この場では無理だと言われてきている。そこを逆に前倒しして答えを出していただくと、保護者の方にとっても見通しが立ち安心感に繋がるのではないか。

世の中では、小中一貫教育に2000年頃から、小中一貫校は2004年頃から取り組み始めている。今では後発も後発だ。成功例や失敗例はこの20年間で蓄積されているので大いに参考にすべきだし、情報提供してもらいたい。鶴岡市教育委員会がこの20年間、なぜこの小中一貫教育に手を出さなかったのか、なぜ今取り組むのか、ということを明日の渡前小学校区懇談会で伺いたい。九州に視察に行ったときに、なぜ今頃小中一貫教育、義務教育学校をするのかと言われた。理由があったはずだ。その理由を伺う。

そして、一つ一つの要望、意見に対し、これは取り組むという教育委員会の姿勢があれば、理解が進むだろうし、今後の具体的な検討も一層スピードアップしていくのではないか。やってくれるのかやってくれないのか曖昧なままで蓋を開けたらできないと言われることが心配であり、その心配をできるだけ解消するように努力していただきたい。

(会長) その点は明日よろしく願います。

人事関係では、他の方からも、始まるときに経験のない方が配置されたときを心配する意見をいただいている。その点は、人事交流を先にやりながら適正に配置されると思う。

(委員H) 委員Jが発言したことをまさに心配していた。教員を加配し、二クラス体制を必ず維持してほしいと、前から言ってきたが否定されている。二クラス体制維持を、この会議の中で附帯意見としてとして言ってもらいたい。そしてそれを聞かなかったら賛成できないという条件で、義務教育学校に不本意ながら賛成することにしたい。尊重でも前向きな検討でもなく実行を求める。

(委員C) 学校教職員が反対署名活動に多く署名したとのことを受け、教職員が義務教育学校についてどう思っているか調べたく、ネットで日教組のページから情報を探した。学校現場はブラックだ、くたびれてしょうがない、いつやめようか、という記述が多く、義務教育学校に関する記述は探すことができなかった。それほど学校現場の中で教職員が頑張ってつぶれそうになっているという窮状を初めて見た。その中で、義務教育学校が、明るい方向と暗い方向のどちらに向いているかということ、おそらく暗い方向に向いていると心配する。先ほどから出されている意見のように、適切な人員配置により労働環境を整えていただきたい。

附帯意見について、予算の確保の問題がある。文化会館で予算が全然足りず、建設費が何倍にもなった事件があった。建設業に関係する仕事を長年してきた。毎年のように人件費、労務単価、材料単価、諸経費率が上がっている。最低賃金が上がっている時勢であり、建設の世界も動きが激しい。その中で事業費を見定めるのはすごく難しい。小中一貫校となると大きな事業費になることは先般から言われているが、事業費が大きいほど、影響も大きい。4-3-2制で9年間を過ごすとするれば、4年間の前期ブロック、3年間の前期ブロック、2年間の後期ブロック、それぞれに施設を作ること、例えば体育館がそれぞれのブロックにあり、グラウンドもそれぞれのブロックに分けてあり、プールもそれぞれのブロックに合った環境を作るといようなことを一つ一つ細かい条件として附帯意見に盛り込むべきだ。それを叶えるだけの事業費の積み上げも精査を重ねて、確かな事業ができるようにすべきと附帯意見に盛り込んでいただきたい。

(会長) 時間の関係上、1号、2号委員の中で意見のある方がいれば発言願う。

(委員T) 藤島地域教育振興会議においては、メリット、デメリットを委員の皆さんに勉強していただいた上で、今の子どもたちを取り巻く環境からして、義務教育学校が一番いいのではないかと最終的に判断し、義務教育学校を基本とすることを提言した。なぜ義務教育学校、

小中一貫教育を進めていかなければならないかを示す必要があると発言があった。これまで取り組んできた小中連携だけでは今抱えている課題を十分に解決できなかったため、さらに一步進めて小中一貫教育で課題を解決していこうという教育方針で、来年度から全市挙げて取り組むことになったのだと思う。委員Dから発言あったように、小中連携では、校舎等が別々であるため授業交流は年に数回できればいいほうで、行事等はそれぞれでやるので、小学校と中学校で互いにどういう指導をしているか具体的などころまではなかなか見えない。藤島小と藤島中ほど近い距離にある学校は他に無いが、その藤島小と藤島中のでさえ先生同士の交流、行き来はなかなかできなかった。課題を抱える子どもについては、何回か行き来して情報交換してスムーズに繋がるように頑張ってきたわけだが、それでも課題を解決していくことが難しかった。私の持論だが、小中一貫教育を進めるには施設一体型が最適である。一つの施設で、しかも職員室も一つの中で、常に小学校の先生と中学校の先生が情報交換しながら対応することで、子どもたちへの一番いい教育ができると考える。また、中学校の先生方の教科指導や生徒指導等のノウハウが小学校の先生方には参考になるし、一人の子どもが多くの先生方から見てフォローしてもらえるのは大変ありがたいことだ。

小学校低学年の子どもたちが環境に慣れるか心配だとの発言があったが、1年生から9年生まで全部同じように指導したり教育したりするわけではない。一つの校舎に入るから全部一緒にやるということは、誰が考えてもありえない。それぞれの発達段階も踏まえながら、より適切な教育の仕方を考えながら先生方が対応して教育を行っていくので、そういった心配は不要だ。万が一そういった対応ができないとすれば、学校の方に学校運営協議会等を通してお願いしていくことが大事だと思う。よりいい指導ができるように先生方が工夫して対応していく。そのために時間を割いて先生方が忙しくなるとしても、本来の業務に時間を割くのは教師として当然の責務である。そのように教育をしていただければ、藤島にも素晴らしい学校ができ上がっていくのではないかと。どれだけ先生方から対応してもらえるか不安な部分は確かにあろうが、課題が出てくれば、都度取り上げて対応していただきたい。

予算の件について、お金をかければ確かにいいものができるかもしれないが、お金をかければいいというわけではない。4-3-2制を敷いたからといって、4-3-2それぞれのブロックに合わせた体育館とかグラウンドを作る必要はない。一日中体育をするわけではなく、空く時間を有効に活用して時間割を組めばいいだけの話で、やり方次第である。

資料の中に、第1回の整備検討委員会後に寄せられた意見がある。第1回会議で発言できなかった方々が中心に書いたと思うが、ほとんどの方が義務教育学校で進めるべきだとのことで、賛成意見を寄せている。保護者の皆さん方の意向等も、義務教育学校に賛成する意見が多いようだ。早期に結論を出して、具体的な課題等の検討を進めていただければありがたい。

(会長) その他に意見はあるか。無ければ以上とする。今回出た意見やこれまで出た意見については、次回の検討委員会ですべての意見の案として整理した上で、提示する。

(3) その他

(会長) その他について、発言はあるか。無ければ、教育長から発言したいとのことである。

(教育長) 本日は大変お忙しいところ参集いただき、貴重な意見を頂戴し、感謝する。

今回は、藤島小学校区、渡前小学校区から、義務教育学校の整備に関し賛成であるとの意向を伺うことができた。東栄小学校区の協議が来週あるので、これを受けて、整備検討委員会からの報告をいただくものと考えている。義務教育学校の整備に関しては、期待する声や、新しい学校の形態であることから心配なことなど、多方面から様々な意見をいただいている。本日も皆様から、期待されること、不安に思っていることを様々お聞きした。

昨日、教育委員会で萩野学園と明倫学園に視察に行った。萩野学園は9年目、明倫学園は2年目とのことで、萩野学園の良さをしっかり新庄市民の皆様に伝えたからこそ、明倫学園が2校目として開校することができたと感じている。私たちも教育委員会として、よりよい義務教育学校等についてしっかりと説明を申し上げたいと考えている。また、全国都市教育長会、全国市町村教育長会等の団体において、働き方改革のこと、教職員の受け持つ時間を少なくして子どもたちにしっかりと対応できるようにしていただきたいこと、加配の教員を増やしていただきたいこと、合築や統合施設整備に対する財政支援を拡充することなどについて要望をしている。文科省、県教委の対応について注視し、より良い教育環境のために良い回答を得たいと考えている。

様々懸念されることなどを次回の整備検討委員会で附帯意見としてまとめていただけると考えている。それらのことに、教育委員会としても丁寧に対応していくので、今後ともよろしく願います。

(会長) 協議を終了し、進行を事務局に返す。

■次第6 その他

発言等無し

(教育部長) 次回の開催日程については、東栄小学校区、渡前小学校区の懇談会の状況を受けて調整しお知らせする。